

2019年度 実践報告

インクルーシブキャンパス講座 :若者のための「学び」を楽しむセミナー

相模女子大学
日戸由刈



受付開始：2019年8月15日から



2019年度
秋季さがみアカデミー



講座12 若者のための「学び」を楽しむセミナー

【コーディネーター・司会】

日戸由刈 / 相模女子大学人間社会学部人間心理学科教授

川口信雄 / 株式会社ゆたかカレッジ顧問

【曜日・時間】 いずれも土曜日 14:00~15:30 【定員】 各回20名程度

【会場】 相模女子大学 夢をかなえるセンター1階 English Room ※9月21日のみ 4階ガーデンホール

【受講料】 1回当たり学生500円、学生以外の18歳~29歳500円、30歳以上1000円

※障害者手帳をお持ちの場合は無料

本企画のねらい

知的障害や発達障害のある若者に対して
大学で提供できるインクルーシブ教育の場の
レパトリーを広げること、そして こうした
若者たちのニーズを実践的に調査すること

<仮説>

魅力的な学びの場が提供されることで、ターゲットの
若者たちは自ら興味をもって参加するのではないか

内容

毎回マニアックな講師を招き多彩なテーマに触れることで、若者が
自分の興味や視野を広げ人生の楽しみ方を知る機会を提供します

| 日にち | テーマ | 講師 |
|----------|-----------------------|----------------------|
| ① 9月21日 | 「生き物大好き！私のペット遍歴」 | 杉山 明 (横浜市立市ヶ尾小学校) |
| ② 10月26日 | 「もうすぐ必修化・プログラミングを学ぼう」 | 岡田克己 (横浜市立仏向小学校) |
| ③ 11月16日 | 「秘伝！ コレクション整理・活用術」 | 近藤幸男 (横浜市立鴨志田中学校) |
| ④ 12月21日 | 「鉄道を見るマニアの目・プロの目」 | 湧口清隆 (相模女子大学) |
| ⑤ 2月1日 | 「感情を生み出す脳の不思議」 | 米田英嗣 (青山学院大学) |
| ⑥ 2月29日 | 「宇宙人類学講座—MESOPOTAMIA」 | 綿貫愛子 (東京都自閉症協会) |

報告書提出期限後に実施

第1回「生き物大好き！ 私のペット遍歴」

参加数18名

飼育歴のある
熱帯魚・爬虫類
の紹介



講師は通級担当経験のある
横浜市小学校の校長先生



生体展示
&ふれあい体験



参加した若者の感想(第1回)

※中学生～30歳までの参加者
から提出されたアンケート

- ・ぼくはヘビをさわりたいくて来たのですが、ついに運命となるヘビを触ることができてよかったです(18歳・男)
- ・爬虫類がとても可愛かった(18歳・男)
- ・本物の蛇に触れるか心配していたが、大人しかったので触ることができた。亀の餌やりも楽しかった(20歳・男)
- ・家でもメダカを飼っているので、熱帯魚の話を楽しく聞かせていただきました。初めは怖かったですが、ヘビにも触ることができました。また次回以降も参加したいと思います(21歳・男)

参加数(第1回)

| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 就労手帳 | 2 | | | | | |
| 高等手帳 | 2 | | | | | |
| 高等一般 | — | | | | | |
| 中学手帳 | — | | | | | |
| 中学一般 | — | | | | | |
| 小・高学年 | — | | | | | |
| 小・低学年 | 5 | | | | | |
| 保護者等 | 9 | | | | | |
| 合計 | 18 | | | | | |

小学校低学年の参加が多い…

**若者の参加
なぜ少ない？**

若者の参加 なぜ少ない？

当事者(かつ専門家)にインタビューした結果

- ・セミナーの内容構成は魅力的だと思う
- ・若者の参加率が低い要因は、保護者の影響が大きい
- ・若者の保護者世代は、就労への関心が高く
余暇の優先順位は低い
- ・若者は一度参加して楽しいと思えば、また参加する
「就労」というキーワードを使って宣伝し、
まずは参加者を増やすとよい

2019年度 秋季さがみアカデミー

若者のための 学びを楽しむ セミナー

近年、若者が心の健康を維持するために、興味を活かした余暇活動への参加の大切さが知られるようになりました。このセミナーでは毎回マニアックな講師を招き、多彩なテーマに触れることで、自分の興味や視野を広げ、人生の楽しみ方を知り、心の健康を維持・向上させる機会を提供します。

【コーディネーター/司会】

日戸由河 (いっく) 相模女子大学教員、川口信雄 (のぶお) 前相模女子大学の教員(講師)

【会場】 相模女子大学 学友会館1階 センター 1階 イングリッシュルーム

【定員と対象】 各回 20名程度、中学生以上(テーマに異状があれば小学生でも可)

【受講料】 1回ごとに 学生 500円、学生以外の18歳~29歳 500円、30歳以上 1000円

※ 障害者手帳をお持ちの場合は無料 ※ 当日会場にて支払い(現金払い)

【申込方法】 申込期間内に①~④の必要事項を添えて、メールでお申し込みください。
sagami-info@mail2.sagami-wu.ac.jp

①参加希望講座の「開催日」と「テーマ」 ②氏名(ふりがな) ③住所
④連絡先電話番号 ⑤メールアドレス (注)各講座には申込期間があります

気になる講座だけでもよし、全部回コンプリートでもよし
参加のしかたは自由!!
会場は女子大学だけど、男女問わず参加できるよ!

| 開催日 | テーマ (講師) | 申込期間 |
|-------|--|---------------------|
| 9/21 | 「生き物大好き! 私のペット講座」 (杉山 明/横浜市立市ヶ丘小学校校長) すばらしい生き物(かな)、生き物! 新着品に始まり爬虫類に至った、講師の「生き物大好き!」話を聴いて、参加者同士で爬虫類の魅力や生き物に対する思いを語り合い、共有しましょう! | 7/21 ~ 9/11 |
| 10/26 | 「もうすぐ必修化! プログラミングを楽しく学ぼう」 (岡田亮己/横浜市立山崎小学校教諭) 子どもから大人までやりこむことができるプログラミング言語「ピスケット」で、オリジナルゲーム作りを体験! プログラミングで人とのかかわりが深まり、社会の役に立ちてもらうかも!? | 8/26 ~ 10/16 |
| 11/16 | 「秘伝! コレクション整理・活用術」 (近藤聖男/横浜市立鶴巻田中学校主幹教諭) 自分では整理しきれないほど集まった特撮フィギュアコレクションや千両の郵便にもあったりしませんか? 3.11以降集めることが増え、整理・活用を急いでほしいです! | 9/16 ~ 11/6 |
| 12/21 | 「新進を見るマニアの目・心の目」 (瀧口 剛雄/相模女子大学教員) 映画マニアとして、「こんなサービズがあれば…」と思うことがあります。しかしそれが実現しない背景には、プロの異なる見方があるのです。マニアとプロの見方の違いを学んでみませんか? | 10/21 ~ 12/11 |
| 2/1 | 「感情を生み出す「脳」の不思議」 (水田真由美/南山学院大学教員) どうして涙が出るの? 不安をうまくコントロールするには? 自分と他人の感じ方は違うみたい。感情にまつわる様々な疑問を、脳科学で解説! 知らなかった自分が発見できるかも! 女 | 12/1 ~ 1/21 |
| 2/29 | 「宇宙人類学講座—MESOPOTAMIA—」 (藤原英子/INPO 法人東京都自然環境協会員) メソポタミア文明の楔形文字を世界最古の文字であり、円筒印章は世界最古のハンコです。その楔形文字と円筒印章を使って粘土板文書づくりはトライ! 宇宙とのつながりも見えてくる!? | 12/29 ~ 2/19 |

【曜日・時間】各回とも土曜日 14:00~16:30(受付 13:30~)

このマークのある日は、講座終了後、
「ゴリさんの就労セミナー」を開催!!
ゴリさんこと川口信雄が、「働く」とは何ぞや!？」を伝授します
※20分間のショート・レクチャー (希望者は残ってください)

2019年度 秋季さがみアカデミー

若者のための 学びを楽しむ セミナー

このマークのある日は、講座終了後、
「ゴリさんの就労セミナー」を開催!!
ゴリさんこと川口信雄が、「働く」とは何ぞや!？」を伝授します
※20分間のショート・レクチャー (希望者は残ってください)

【申込方法】 申込期間内に①~④の必要事項を添えて、メールでお申し込みください。
sagami-info@mail2.sagami-wu.ac.jp

①参加希望講座の「開催日」と「テーマ」 ②氏名(ふりがな) ③住所
④連絡先電話番号 ⑤メールアドレス (注)各講座には申込期間があります

気になる講座だけでもよし、全部回コンプリートでもよし
参加のしかたは自由!!
会場は女子大学だけど、男女問わず参加できるよ!

| 開催日 | テーマ (講師) | 申込期間 |
|------|---|-------------------|
| 9/21 | 「生き物大好き! 私のペット講座」 (杉山 明/横浜市立市ヶ丘小学校校長) すばらしい生き物(かな)、生き物! 新着品に始まり爬虫類に至った、講師の「生き物大好き!」話を聴いて、参加者同士で爬虫類の魅力や生き物に対する思いを語り合い、共有しましょう! | 7/21 ~ 9/11 |
| | 世界最古のハンコです。その楔形文字と円筒印章を使って粘土板文書づくりはトライ! 宇宙とのつながりも見えてくる!? | 2/19 |

【曜日・時間】各回とも土曜日 14:00~16:30(受付 13:30~)

このマークのある日は、講座終了後、
「ゴリさんの就労セミナー」を開催!!
ゴリさんこと川口信雄が、「働く」とは何ぞや!？」を伝授します
※20分間のショート・レクチャー (希望者は残ってください)

講師は横浜市の現役
小学校通級担当教師

第2回「プログラミングを 学ぼう！」

タブレットを使った
参加・体験型



<おまけ>
ゴリさんの就労セミナー



参加数20名

参加した若者の感想(第2回)

・(とても楽しかった)絵を描くのは大好きだから
(17歳・男)

* 小学生の参加者からは多くの自由記述が寄せられた

第3回「秘伝コレクション 整理・活用術」

講師は横浜市の現役
中学校通級担当教師

このタイトルに魅かれて
サガジョ生、卒業生など
女子から参加申込み

自身のフィギュア等
収集歴と整理法

現役サガジョ生もとびいり
ライダーベルトを自慢

<おまけ>
ゴリさんの就労セミナーにて
就労した岩本さんのトークショー

参加数19名

参加した若者の感想(第3回)

- ・自分も好きな物をコレクションし始めようかなと想像した(20歳・男)
- ・色々なフィギュアを拝見することができて楽しかったです。私自身も趣味をたくさん持ちたいと改めて思いました(23歳・女)
- ・自分の好きな物を語れるのは楽しそうでした。今回のメインテーマはフィギュアでしたが、他の物にも通じる話でもあったので、上手に使えると役に立つかもしれないかなと思う(29歳・男)

第4回 「鉄道を見るプロの目・マニアの目」

講師は相模女子大学
社会マネジメント学科教授
(専門は「交通経済学」)

講義終了後、すっかり定番になった
岩本さんのトークショー

参加者は小学校低学年から60代の市民まで、知的障害の方からも鉄道マンまでと多彩。みな鉄道好きで、専門的な講義に大満足！講義の後は、知的障害の若者、一般の人両方からたくさん質問が出された

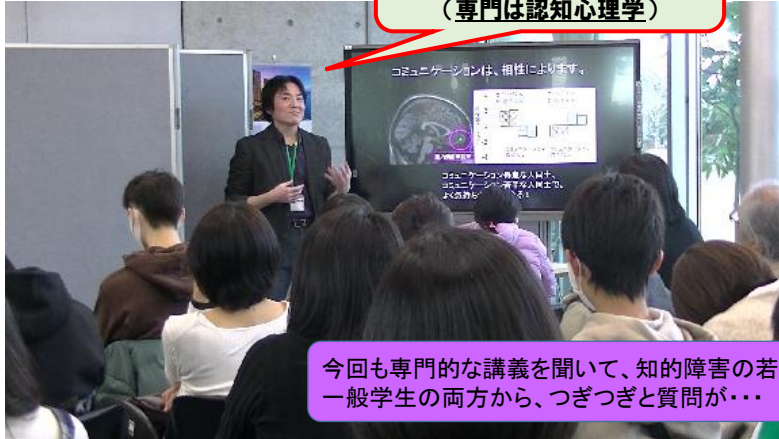
参加数28名

参加した若者の感想(第4回)

- ・マニアックな内容でわからないことが多かった。ど
ういう感じでやっているのかわかったので良かった
(19歳・男)
- ・フランスのトラムと西武鉄道のレストラン列車に乗
りたくなってきた(20歳・男 リピーター)
- ・路線、時刻の話は難しかったが、珍しい電車など
の話がよかったです(22歳・男 リピーター)
- ・電車の時刻表を見るのが好きなので、時刻表のお
話が興味深かったです(23歳・女 リピーター)
- ・時刻表の作り方の解説は、正直よく分からなかつ
たが、良かったと思います。会社の事情など
(29歳・男 リピーター)

第5回 「感情を生み出す 脳の不思議」

講師は青山学院大学
教育学科准教授
(専門は認知心理学)



今回も専門的な講義を聞いて、知的障害の若者、
一般学生の両方から、つぎつぎと質問が...

参加数29名

参加した若者の感想 (第5回)

アンケートの裏にびっしりメモをとり、
写メして持ち帰る若者も..
(すごい集中力！)

- ・ある程度理解していたものもあれば、理解していなかったものもあった。自分の行動にある程度わかることができた。先生が親しみやすかった(17歳・女)
- ・怒りを鎮めるためには糖分を取る→血糖値を上げるとイライラおさまる。自分の気持ちを書き出す。心を落ち着かせるためには、見方を変える。興味があり面白い内容だった(19歳・男 リピーター)
- ・自分の悩みや行動について理解できた(19歳・男)
- ・悪いストレスをためない対策が頭の中のコントロールを聞いて勉強になった(20歳・男 リピーター)

次スライドに続く

続 参加した若者の感想(第5回)

・ストレスとの向き合い方について知ることができました。社会に出るとストレスを感じる人がたくさんありますが、ストレス発散方を見つけたり、考え方を改めたり、ストレスと上手につき合っていけるようになりたいです(23歳・女 リピーター)

・脳に関する事、トラウマに関して知れて良かったです(24歳・男)

・職場で自分のことをうまく発信できず悩んでいたが、脳は後で解しゃくして感情をコントロールすることができるかと分かり、とてもためになった。文章化、言葉にすることを実践してみたい(25歳・女)

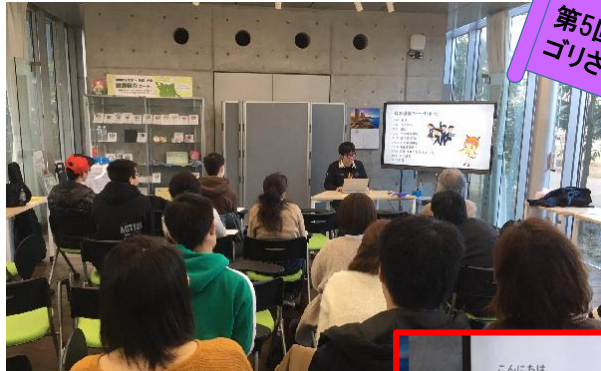
・感情とかを理論的に聞くのは好き(30歳・男 リピーター)

参加数の推移 ()内はリピーター数

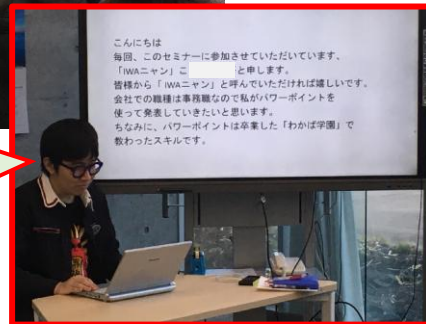
就労した若者の
リピート率の高さ

| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 |
|-------|-----|-------|-------|-------|--------|-----|
| 就労手帳 | 2 | 3(2) | 4(2) | 6(5) | 8(5) | |
| 就労一般 | — | — | 1 | 8(1) | 1(1) | |
| 高等手帳 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3(1) | |
| 高等一般 | — | — | 3 | 2 | 1 | |
| 中学手帳 | — | 1 | — | — | 1 | |
| 中学一般 | — | 1 | 1 | 1 | — | |
| 小・高学年 | — | 5 | — | 1 | 3 | |
| 小・低学年 | 5 | 2(1) | 1 | 1 | — | |
| 保護者等 | 9 | 7(2) | 7(1) | 7(1) | 12(3) | |
| 合計 | 18 | 20(5) | 19(3) | 28(7) | 29(10) | |

第5回おまけ ゴリさんの就労セミナー



岩本さんが会社に許可を得て
自分の就労生活をスライドでプレゼン！
(その後は定番のトークショー)



こんにちは
毎回、このセミナーに参加させていただいています。
「WAニヤン」と呼んでいただければ嬉しいです。
皆様から「WAニヤン」と呼んでいただければ嬉しいです。
会社での職種は事務職なので私がパワーポイントを
使って発表していきたいと思っています。
ちなみに、パワーポイントは卒業した「わかば学園」で
教わったスキルです。

プレゼンした岩本さんの感想

今回、就活セミナーの資料を作成するに辺り「内容はどうか？」とわくわくした反面緊張感もありました。

川口先生がテーマを決めてくださったので、大半母にサポートされながら作り上げることができました。

社内のことを伝えるに辺り、どこからどこまで話したらいいのかわからず頭を抱えることも多々ありましたので、直属の上司に相談してアドバイスを頂きました。

コミュニケーション能力があまりない私にとって、パワーポイントの発表は口頭のみで伝えるよりもとても発表しやすかったです。

次回も発表する機会がありましたら、パワーポイントを使用したプレゼンをさせて頂けたらと思います。

ニーズ調査の結果

- ・さまざまなタイプの講師に依頼した結果

小中学校の特別支援教育の教員の講師の話より
専門性の高い講師によるディープな話の方が、
知的障害の若者から質問や感想が多く寄せられた

彼らのニーズは特別支援教育ではなく、高度な専門性

- ・魅力的な学びの場を提供することで、
就労した若者が繰り返し参加するようになり
椅子の片づけをみんなで協力して手伝うなど
受講生という枠を超えた主体的な参画を示していた

就労した若者こそ、生涯学習の場へのニーズが高い

今後の課題

元特別支援学校の進路専任にインタビュー

- ・順調に仕事についてきた若者にも支援は必要
- ・余暇支援は、最も受け入れやすい
- ・ある地域ケアプラザでは、月1回、曜日時間固定
で手帳就労した若者に集いの場を提供
- ・そこでは何をするわけでもなく、一緒にしゃべり
ときに誘い合って遠出の計画など立てている

**魅力的な学びの場から「出会いの場」、そして
キャリア発達の可能性を広げる場へ**

第5章 総合まとめ

第1節 成果

これまで述べてきたようにインクルーシブ・ゼミ、出前講座、キャンパス講座（さがみアカデミー）という3つの学習プログラムの実施により「共に学ぶことで共に変わった」という実感を持つことができたと考える。具体的には次の4点が挙げられる。

- ①カレッジ学生は同世代の若者とのコミュニケーションがスムーズになった。
- ②カレッジ学生、大学生双方とも自分の良さや苦手などを発見し、自分のことを他者に理解してもらおうとする態度が育ってきた。
- ③一般の大学教員等が知的障害者に対して理解を深め、知的障害者の学びの可能性を実感することができた。
- ④さがみアカデミーという若者ための魅力ある公開講座を実施したことは、一定の参加者があり、かつ参加者の満足度の高さから、学びの機会（生涯学習）のニーズは高いことが示唆された。

①②について

インクルーシブ・ゼミの初回時、カレッジ生の緊張感は半端なく大きかった。普段は狭い教室で顔見知りの人と少人数で学んでいる学生にとって、広々としたキャンパスを歩き、大きな教室で同年代の女学生と話すことは異次元の体験だった。自己紹介中に隣の大学生が感じるくらい体が震えていた学生がいる一方、話についていけないと手持ち無沙汰な様子を露骨にだしてしまい大学生に不安を感じさせる学生もいた。大学生側も最初はカレッジ生の困り感が分からず、コミュニケーションもぎこちなく、ありきたりの会話に終始しがちであった。その彼らが回を重ねるうちに打ち解け合い、お互いに自分の悩みを共有し相談できるまでになっていく過程は感動的さえある。これらの成果は毎回の「ふり返り」の中に学生自身によって語られている。カレッジ生のふり返りを一つご紹介する。

インクルゼミを受けて、自分が少し変わったと思うところがあります。それは、人に悩みを打ち明けることで周りが共感してくれる喜び、自分の表情が柔らかくなったことなどたくさん変わる事ができました。最初の授業では、ちょっとしたゲームなどで緊張した雰囲気は少し落ち着いて、サガジョ生の方も優しくそうな人がたくさんいて安心できました。そして、カレッジに来てくれて、そこで初めて色々な話をする事ができ、自分もだんだん皆といることが楽しく感じる事ができました。ポートフォリオを作成し、発表する頃には、緊張も解け話し合いや発表に対してドキドキする事が少なくなりました。皆の悩みを聞いてみて、「確かに！」と思えたり、趣味の話になると、見た感じだけでは分からない意外な趣味を持っていて面白いと感じたりなど、自分自身がインクルーシブ・ゼミを楽しいものなんだと思える事ができました。もうゼミが終わってしまうのは寂しいし、今まで話してきたサガジョ生に会えなくなると思うと悲しいです。自分は友達と別れることに対して寂しいと思うことが少なかったので、そう思えるということは、皆との距離が縮まった証拠だと思いました。障がいがある無い関係なく楽しく関わる事ができたのは今回のゼミのお陰です素晴らしい時間を過ごせて本当に良かったです。ありがとうございました。

また、パーソナルポートフォリオづくりは大学生にとっても発見の時となったようである。ある大学生はカレッジ生が得意なものをたくさん発表する様子を見て次のようにふり返っている。

自分の好きなことはいくらでも書けるのに、得意なことはほとんど思いつかないことに気付いた。カレッジ生は得意なことをたくさん見つけられて凄いと思った。自分も自分の得意なことを見つけれられるように努力しようと思った。

急速に変化する現代社会においては、大学生も言葉にし難い困りごとや不安を抱えるようになってきており、自分の困難を表現する言葉を持たず、原因もわからないまま社会に出ると、苦しい状況に追い込まれる。つまり、大学生にとっても「自己理解」の深化は必要である。「自己理解」は対話の中で生まれる。次に大学生が対話の大切さについてふれているふり返りをご紹介します。

自分のことを話すことを通して「話してみるものだな」と思った。何について話そうかと悩んでいる時に「こういうこと？」とか「例えばこういうこととかあった？」など一緒に考えてくれたり、「こういう風にしてみたら？」とか「こういう解決策もアリじゃない？」などと言ってくれたり、「わかる！」などと共感してくれたりして、まるで自分の様に考えてくれているかのように思えて嬉しかった。それらは私が話していなければきっと得られなかった言葉であるため、とても良い時間を過ごすことができたと思う。

③について

出前講座については、単発で終わることが多かったが、講師の先生方がそれぞれ工夫してくださって、1回完結型でもカレッジの学生たちには新鮮で興味のある授業になった。学生たちのふりかえりや、講師の先生方の感想等からその様子がうかがうことができたのは成果の一つと言える。できたら、3回で1講座ぐらいにして、目標設定をした上で、学生たちの目標達成状況をふりかえりながら講師陣も授業改善につなげていけたら、より深い学びにつながる授業になると思った。

また、講師らはこのようにカレッジの学生たちと授業を経験することにより、知的障害や発達障害のある学生について、授業を通して理解を深めることができたと思っている。インクルーシブな社会という観点からもとても意義深いことである。これから軽度の知的障害や発達障害のある学生が大学に入学してきても（実際今はどこの大学でもそのような学生が入学してきているらしい）、戸惑わずに講義ができたり、学生指導・支援ができたりするのではないだろうか。この観点からも、出前講座の成果があったと言える。

④について

この報告書作成段階で、実はまだ1講座さがみアカデミーを残していた。原稿期限の関係でその結果について載せられなかったことは、とても残念であるし、関係者のみなさまに申し訳なく思っている。

しかし、それまでのさがみアカデミーについては、当初参加者が少なかったものの、就労セミナーを加えたり、関係者があらゆる場面で宣伝したりしたこともあって、徐々に増えていった。就労している若者やリピーターも参加していたことから、講座の内容が魅力的であれば、今後も一定の参加者が見込まれることがわかった。

また、様々なタイプの講座を準備し、各分野の専門性の高い講師の方から、わかりやすくお話

をしていただけたことで、知的障害者の方たちは興味深く話を聞くことができ、理解できたこともリピート率の向上にもつながったのではないと思う。

このような結果から、魅力ある公開講座は、知的障害者や発達障害者にとってニーズが高く魅力的な学びの場や余暇支援になりえると言える。そして、それは彼らのキャリア発達の一助にもなることであろう。

最後に、3つの学習プログラム開発は一定の成果を上げることができた。しかし、これがすぐどこでもできる仕組みかということ言うと難しいことがあることも否めない。今回は、福祉施設が大学との連携の中で実施できたプログラム開発であったが、対象者、時間、場所、担当者、内容、運営・連携のあり方等も含めてさらに検討していく点はいくつもあったことを、自戒をこめて申し述べておく。

第2節 課題

課題の第1は大学側の全面的な理解と応援であるが、わが国の現状は厳しい。この点、先日訪問した神戸大学は大変進んだ取組をしていた。参観したのは17時からの哲学の講義であった。メンバーは知的障害を持った10人あまりの若者が一日の勤めを終えて週3回大学に通学してくる。指導側は講義を行う大学教員1名、コーディネーターが2名にメンターの神戸大学生が5人の構成だ。大学の教室を使い、講義前には大学のカフェで夕食を取ることもできる。コーディネーターは大学職員で特別支援教育の経験者であり、臨機応変に解説を入れるなど絶妙な支援を行っていた。なお、学生の身分は聴講生で入学選抜もあり学費も払っている。

今回の実践研究はゆたかカレッジという福祉施設が相模女子大学と連携して実現したプロジェクトであるが、本来の高等教育におけるインクルーシブは大学が中心となるべきである。従って、今回のカタチはそこにいたる過渡期のものと考えている。

第2は、高等教育におけるインクルーシブをどこから始めるのがよいかだ。欧米諸国では知的障害者があっても学ぶ意志を認め一人の大学生として受け入れているケースが報告されている※。知的障害を持った若者でも大学生になる選択肢や権利を保障することは理想形だと思うが、わが国の現状を見ると理想と現実の乖離が大きい。そこで、まずは就労している高等部卒業生対象に夜間や土曜日に大学で学ぶ機会を保障していくところから始めるのはどうだろう。福祉枠ではなく高等教育の枠組みであるので、当然学費や選抜という負担もある。大学教員と学生をつなぐコーディネーターは本来大学職員であることが望ましいが、当初は大学当局からのアウトソーシングもありだろう。

筆者は横浜市立若葉台特別支援学校高等部で進路専任に携わり、約100人の生徒の就労や卒業後支援を担当した経験がある。その中で気付いたことは働き続けるためにはハードスキルだけでなく相談力や余暇などのライフスキルが必要だということである。そこで、ライフスキル養成を勤務校のカリキュラムに強く反映させてきた。しかし、卒業生の支援を3年4年と続けていく中で、特別支援学校高等部での教育の限界が見えてきた。社会人になり人生の荒波に直面した時、高等部で学んだことだけでは乗り越えられないことも少なくない現実がある。彼らとその波を越えていくために必要なことは「学び続ける」ことがある。本プロジェクトのさがみアカデミーには筆者の教え子たちも参加している。その感想に「講座の先生方の話を聞いて、『世の中には様々な楽しみを持っているんだな』と感じ、自分の行動範囲も広がりました」「高校卒業後に社会人となり、現在苦戦している課題をみんなに伝えることができよかったです」とある。ともすれば職場と自宅の往復という単調な生活に陥りがちな彼らにこそリカレント教育は必要なのだと思う。

※長谷川正人(2019): 知的障害の若者に大学教育を, クリエイティブかもがわ

資 料

- ①事業概要ポンチ絵
- ②視察報告
- ③インクルーシブ・ゼミ指導案
- ④パーソナルポートフォリオ書式
- ⑤成果報告会ちらし



「共生社会の実現に向けた、知的障害者等への生涯学習プログラムの実践研究」 ～大学との連携による「インクルーシブな学び」創成の試み～

ゆたかカレッジについて

「ゆたかカレッジ」とは、障がいのある青年（基本的に18歳以降）たちが、社会で活躍する力をつけるための4年制の「福祉型カレッジ」という学びの場になっている。法制度上は障がい者総合支援法にもとづく自立訓練（生活訓練）事業と就労移行支援事業を組み合わせた多機能型事業所。

【ゆたかカレッジの理念】

当社は、すべての人の学びの機会を通じて社会に貢献する。

【ゆたかカレッジの目標】

- ・障害者の個々のニーズに応じた魅力ある高等教育の機会の保障
- ・すべての人が共に学び、共に働き、共に暮らすインクルーシブ社会の実現
- ・障害者に対する差別と偏見のない社会の創造
- ・障害者とその家族のより豊かな暮らしの実現
- ・社会貢献・社会変革の活動を通じた社員の働きがいの創出

実施体制と学習プログラムの概要

ゆたかカレッジ横浜キャンパス

連携・協働

相模女子大学

連携協議会（年3回実施、天候不良により1回中止）

大学教授、横浜市教育委員会、横浜市健康福祉局、特別支援学校、療育センター、神奈川障害者職業センター

インクルーシブな学びのための学習プログラム

A：インクルーシブ・ゼミ

相模女子大学子育て支援センター事業として大学教授とカレッジ教員が合同で行うゼミ。カレッジの学生4人と相模女子大学6名が双方に自分自身をふりかえり、自分のことを理解してもらおうとする当事者研究として進めた。全7回実施した。

B：インクルーシブ・出前講座

相模女子大学の教員（哲学、心理学、福祉学等）が横浜キャンパスに出向いて授業を行う。知的障害者等に興味関心を持ってもらえるような内容を準備し、講義形式やワークショップ形式で授業を行った。4名の教員らが、各テーマで計10回実施した。

C：インクルーシブ・キャンパス講座（さがみアカデミー）

発達障害者等の突出した興味・関心に着目し、彼らに共通して人気のあるテーマによる講座を年間6回設定した。障害の有無に関係なく一般若者に向けて広く参加者を募ることで、参加者がともに学ぶ機会とした。

共生社会の実現 “共に学ぶことで共に変わった”

実践研究の成果と課題

- ・カレッジの学生は同世代とのコミュニケーションがスムーズになってきた。
- ・相模女子大学生は、知的障害や発達障害についての理解が深まってきた。
- ・双方とも自分の良さや苦手などを発見し、自分のことを他者に理解してもらおうとする態度が育ってきた。
- ・一般の大学教授等が知的障害者に対して理解を深め、知的障害者の学びの可能性を実感できた。
- ・さがみアカデミーには、公募により一定の参加者があった。余暇支援としての学びの機会は必要であり、参加者の満足度は高かった。

【視察者】

| | | | |
|-----|-----------------|----|----------|
| 所属 | ゆたかカレッジ横浜キャンパス | 氏名 | 学院長 小林 靖 |
| 同行者 | 文部科学省 小林 美保 峯浩之 | | |

【視察概要】

| | |
|------|--|
| 日時 | 令和元年9月21日 16時00分～17時30分 |
| 場所 | NPO法人 エス・アイ・エヌ「集いの場あゆみ」 広島県広島市中区住吉町10-2正岡ビル102 TEL082-567-5584 |
| 目的 | 昨年度より、文部科学省の「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」を受託し、先進的に取り組んでいる事業所を視察することにより、カレッジの学習プログラムや運営方法の参考にする。 |
| 説明者 | 地域活動支援センターⅡ型事業「集いの場 あゆみ」所長 草羽 俊之 氏 |
| 視察内容 | <p>[施設見学]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1階活動スペース 2教室分くらいの広さ ゼミテーブル4人がけテーブルと椅子 PC専用机3台、談話ができるソファ、ゲームができる丸テーブル、流し台、トイレ等 60インチの大型TV(ビデオ鑑賞やカラオケ等に使う) ・4階活動部屋(マンションの1室) 調理などを行い、週一回手作りの料理を何人かで食べて、憩いの場としている。 <p>[草羽氏の説明より]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ型の認可をもらうのに、何度も広島市とかけあい、理解をいただいた。対象者は働いている障害者である。ただし、手帳を取得できず、基礎年金をもらってない方もいる。 ・「集いの場あゆみ」は、軽度の知的障害や発達障害のある人が、社会の急速な変化に対応していくための情報や知識を身につけていく学びや、楽しみと喜びのもてる活動を通して新たな人間関係の広がりがもてる場を目指して設立した。 ・働いていてもも困ることは多々生じてくる。そこには支援が必要である。実は家族の支えが厳しい人たちが増えている。必要に応じてケース会議も行っている。 ・土日を中心に生涯学習講座を開いている。昨年度、文部科学省の委託事業を受けて、講座の内容を教科書的に冊子にまとめた。安全に豊かに暮らしていくための必要な内容になっている。 |
| 所感 | <ul style="list-style-type: none"> ・草羽氏は、特別支援学校に勤務していたことから、卒業後のアフターフォローをする中で、卒業生が働く中でどんなことに困っているのか、真摯に考えてきた。その結果、必要な支援は何なのかたどりついた結果として、この事業所ができたと感じた。 ・対象は軽度の知的障がい者や発達障がい者で、障害基礎年金を受給されない人もいるとのこと。家庭生活の基盤がない人もいるようで、包括的な支援が必要であると訴えていた。その通りだと思ふ。大人の食堂のようなものを作っていく必要がある。家族そのものが困っている状況がある。いつどこでつまずかわからないし、どこに相談したら良いかわからない彼らを支援していく場は必ず必要であると思ふ。 ・仮に、職場でうまくいったとしても、休日を使つてのリフレッシュや息抜きは誰も必要なことである。そんな場が「あゆみ」だと思つた。 ・時には、小集団でゆるやかに作品を作つたり、個人で何か趣味的にワークしたり、そこに誰かが声をかえてくれる人がいると安心できる、きっとそんな場になっているのだろう。 ・今回は、休日の視察であつたため利用者がいる場面は見られなかつたが、もし機会があれば利用者が活動している場面を見たいと思つた。様々な表情があるだろうが、目を輝かせて、満足げに通つてきている方々もいるに違いない。 ・反面、草羽氏が指摘されたように、貧困や経済的に厳しい家庭への支援も急務である。私たちにどんな支援ができるのだろうか、考えさせられた時間であつた。 ・今回の視察のご提案をいただいた文部科学省の峯氏に感謝したい。 |

【視察者】

| | | | |
|-----|---------------------|----|------|
| 所属 | ゆたかカレッジ横浜キャンパス | 氏名 | 川口信雄 |
| 同行者 | ゆたかカレッジ横浜キャンパス 小林 靖 | | |

【視察概要】

| | |
|------|--|
| 日時 | 令和2年1月22日(水) 16:30~19:00 |
| 場所 | 神戸大学院人間発達環境学研究科 A棟3階 A347室 津田英二教授(社会教育論) 神戸市灘区鶴甲3-11 |
| 目的 | 大学が主体的に取り組んでいる「学び楽しみ発見プログラム」を実際に見ることで、今後の知的障害者の生涯学習について参考にするため。 |
| 説明者 | 神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム(KUPI)コーディネーター 河南 勝 氏 |
| 視察内容 | <p>「神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム」(KUPI)は、大学の資源を無理なく効果的に活用することで、言語によるコミュニケーションが可能な知的障害のある青年が、学ぶことの楽しさを感じ、自己理解や他者理解、社会認識を深め、人格を陶冶するプログラムである。授業は17時から始まり、20時までにはふりかえりが終わる。</p> <p>火曜日は「障害共生支援論」。津田教授による神戸大学国際人間科学部の授業に参加し、本プログラムと一般学生が話し合いながら共に学び、お互いに学び合う授業である。一般学生12人、履修生11人計23人の授業。</p> <p>水曜日は「よりよく生きるための科学と文化」。教育学、哲学、音楽学、心理学、自然科学などを専門とする大学教員が特別授業を行う。</p> <p>金曜日は「話し合う！ やってみる！」。やってみたいことを話し合っ計画を立て神戸大学生も一緒に研究や創作活動をする。</p> <p>10月から2月までにそれぞれ16回の講座で入学選抜がある。当初5~6人程度を見込んでいたが、14人の志願者があった。選抜の結果11人の青年が履修している。対象は高校か特別支援学校高等部を卒業した人で言語によるコミュニケーションと自立通学が可能で、療育手帳を持ち、家族の理解があることが条件。</p> <p>一般学生の履修授業を同じように受けるために聴講生制度を利用している。授業料は52800円。図書館の利用や健康診断を受けることができる。</p> <p>火曜日水曜日は神戸大学の講義室、金曜日はのびやかスペースあーち(灘区民ホール3階)を利用している。</p> |
| 所感 | 参観したのは水曜日の大学教員による哲学の特別講座(全3回)で今回のテーマは「人間の多様性とは」であった。履修生11人に対し、哲学専門の大学教員、進行役のコーディネーターとサブコーディネーター、大学生のメンター5人で支援者側は計8人体制である。大学教員の講義内容は難解な時もあったが、河南コーディネーター(元特別支援学校教員・前エコール神戸学園長)の進行が絶妙で、難しい内容をかみくだくなど臨機応変に対応されていた。5人のメンターは自らの意志で応募したことが伺われる支援ぶりだった。メンターは履修生が帰った後にふりかえりを実施し、障害理解や支援スキルを身に付けてきている。他の曜日のプログラムにもそれぞれメンターがいる。本プログラムは神戸大学国際人間科学部の全面的な協力があって成り立っていると感じた。5万円以上の出費と夕方からの講義は決して楽な条件ではないが、教室には「学びたい」という青年の熱い意志が漲っていた。 |